

イタリアの
スタートアップ・エコシステム調査

2024年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部

ミラノ事務所

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。
ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

<目次>

はじめに	1
I イタリアのスタートアップ・エコシステムの概観	2
1. 概要	2
2. スタートアップ企業の活動分野の分布	4
3. イタリアのスタートアップが強みを持つ分野でのトレンド、企業数、投資額	8
II. 政府によるスタートアップ企業へのインセンティブとサポートシステム	13
1. イタリア政府の主要な奨励プログラム	13
2. 主要エコシステム都市や地域におけるインセンティブおよびサポート体制	18
III. 2023年に多くの資金を調達したスタートアップおよびイタリアの有望なスタートアップ	21
1. ロンバルディア州の代表的なスタートアップ企業	21
2. 注目すべきエグジット事例	21
IV. エコシステムの主要なステークホルダー	23
1. ベンチャーキャピタル・ファンド	23
2. スタートアップスタジオ/ベンチャービルダー	26
3. ビジネス・エンジェル（エンジェル投資家）	28
4. スタートアップ・アクセラレーター	31
5. インキュベーター	33
V. 総論	38

<図表>

図1. イノベティブ中小企業とスタートアップ企業の推移（2021～2023年）	3
図2. 経済セクター別スタートアップの割合（2023年第3四半期）	5
図3. ベンチャーキャピタル投資総額におけるテック分野別の割合（2023年）	9
図4. ベンチャーキャピタル投資総額における地域別割合	10
表1. イタリアにおけるスタートアップ企業総数と資本総額（2023年第3四半期）	3
表2. 経済セクター別スタートアップの企業数と割合（2023年第3四半期）	4
表3. 企業構成の傾向（2023年）	6
表4. スタートアップの地域別分布と割合-地域ランキング（2023年第3四半期）	7
表5. スタートアップの県別分布と割合-県ランキング（2023年第3四半期）	7
表6. 「スマート&スタート2023」の概要	13
表7. イタリアの州ごとの主要なベンチャーキャピタル・ファンド	23
表8. 地域ごとのビジネス・エンジェルの数と割合	30
表9. 州ごとのビジネス・エンジェルの数	30

表 10.イタリアの BAG および BAN の数.....	31
表 11.イタリアの BAG および BAN の地域別の数と割合	31
表 12.イタリアのアクセラレーター（都市・町別）	32
表 13.イタリアのインキュベーターの地域別分布と数.....	34
表 14.イタリアのインキュベーターの企業名と活動都市.....	35

はじめに

新型コロナウイルス感染拡大（2020年）、ロシアによるウクライナ侵攻（2022年）、イスラエルとハマスの衝突（2023年）など、近年の社会的変動、経済的不況などの動向は、多くの国々に影響を与えた。イタリアでは、2022年10月に同国初の女性首相であるジョルジャ・メローニ首相率いる新政権が発足し、国家経済の立て直しに向けて、多くの政策が打ち出された。

本レポートでは、新時代の経済・社会を支えるとされるイタリアのスタートアップ・エコシステムについての情報を提供する。

本資料が、イタリアにおけるスタートアップ・エコシステムの理解を深め、日伊経済の発展の一助となれば幸いである。

2024年3月
日本貿易振興機構（ジェトロ）
調査部 欧州課
ミラノ事務所

I イタリアのスタートアップ・エコシステムの概観

1. 概要

イタリアのスタートアップ・エコシステムの現状を把握するために、まず同国のスタートアップ企業についての最新状況を報告する。

2023年第3四半期終了時点で、イタリア商工会議所のスタートアップ企業の特別セクションに登録されているスタートアップ企業の数は一万3,820社で、前四半期に比べて92社減少している(0.66%減)¹。

スタートアップによって報告された社会資本の総額は、前四半期に比べてさらに増加(約1,500万ユーロ、1.35%増)し、11億456万3,776ユーロに達した。スタートアップ企業の平均資本金は増加しており、スタートアップ1社あたり約7万9,925ユーロ(前四半期比で約1,585ユーロ増)となっている。

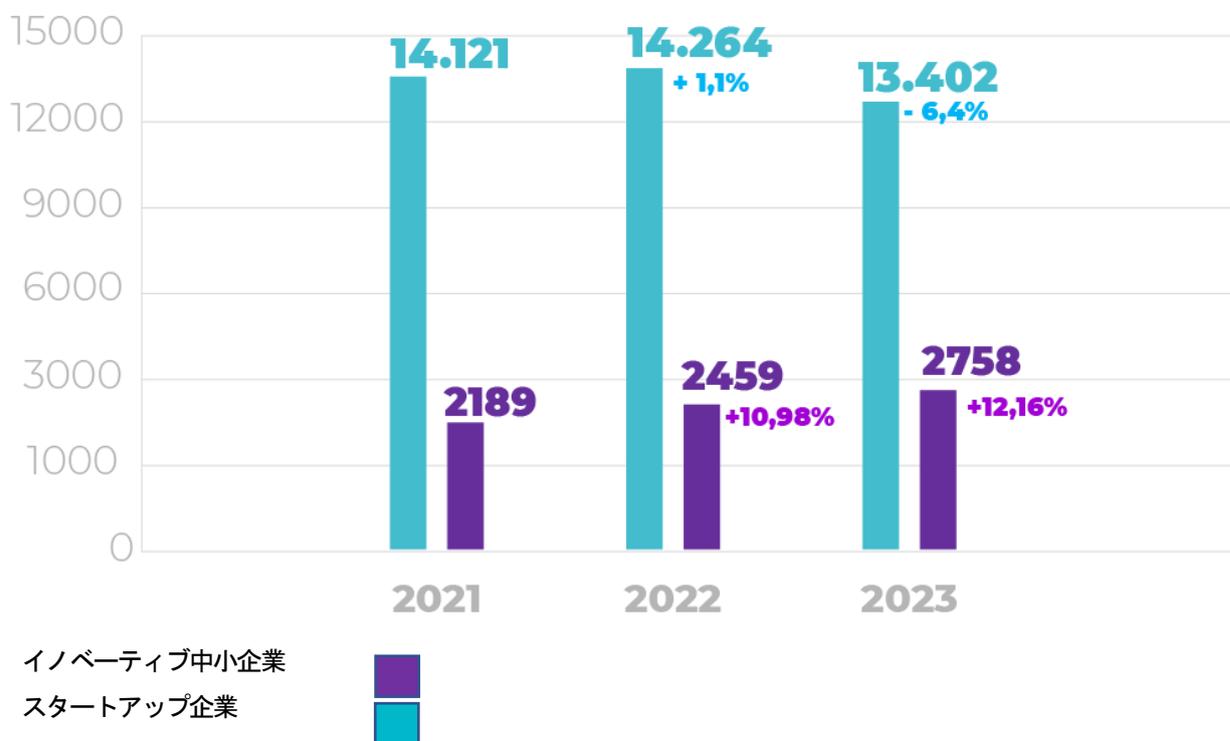
したがって、2023年第1四半期に始まったスタートアップの人口動態のマイナス傾向は、同年第3期にも続いているものの、以下3つのデータより緩和されているといえる。第1にイノベティブ中小企業(PMI Innovative)の増加である。これは、スタートアップ企業の次の経済的進化の段階を意味しており、実際、多くのスタートアップ企業がイノベティブ中小企業に移行している。これはイタリアのスタートアップ企業の持続的な成長を意味している。

第2に、スタートアップの平均時価総額は継続して増加傾向にあり、この分野の安定性を示している。第3の要因は、スタートアップ企業のイタリアの企業総数に占める割合は約3.6%に維持されている。これは、スタートアップシステムが健全であることを示している。

¹本レポートで使用されているスタートアップ企業に関する参照統計データは、2023年10月1日時点更新・登録されている以下政府公式サイトより引用した。UNIONCAMERE/INInfoCamere, <https://www.unioncamere.gov.it>
Ministero delle Imprese e del Made in Italy, <https://www.mimit.gov.it/>

図1.イノベティブ中小企業とスタートアップ企業の推移（2021～2023年）

（単位：社、％）



（出所）イタリア商工会議所「Le imprese degli innovatori italiani」より引用し作成²

表1.イタリアにおけるスタートアップ企業総数と資本総額（2023年第3四半期）

スタートアップ企業総数	1万3,820社
資本総額	11億456万3,776ユーロ

（出所）イタリア商工会議所,“Cruscotto di Indicatori- Dati nazionali,Report con dati strutturali,Startup innovative,3° trimestre 2023”
を元に作成

² イタリア商工会議所,“Cruscotto di Indicatori- Dati nazionali,Report con dati strutturali,Startup innovative,3° trimestre 2023”,
01/10/2023

2 スタートアップ企業の活動分野の分布

(1) 経済セクター別分布の傾向

活動分野別の分布に関しては、スタートアップ企業の77.3%が企業向けサービスを提供している（特に、以下の専門分野が優勢とみられる：ソフトウェア製造とITコンサルティング41.0%、研究開発（R&D）14.3%、情報サービス8.4%）。14.5%は製造業（主に機械製造2.7%、コンピュータや電子・光学製品の製造2.1%）、3.0%は商業で活動している。企業向けサービスを提供するすべての新規設立会社のうち9.5%がスタートアップ、製造・エネルギー・鉱業においては同割合が6.2%になる。さらに、特定の分野では革新的な企業の存在が特に目立ち、新規に設立した会社のうち研究開発（R&D）分野の68.6%、ソフトウェア製造の46.8%、コンピュータ製造の42.3%がスタートアップ企業だ。

表2 経済セクター別スタートアップの企業数と割合（2023年第3四半期）

（単位：社）

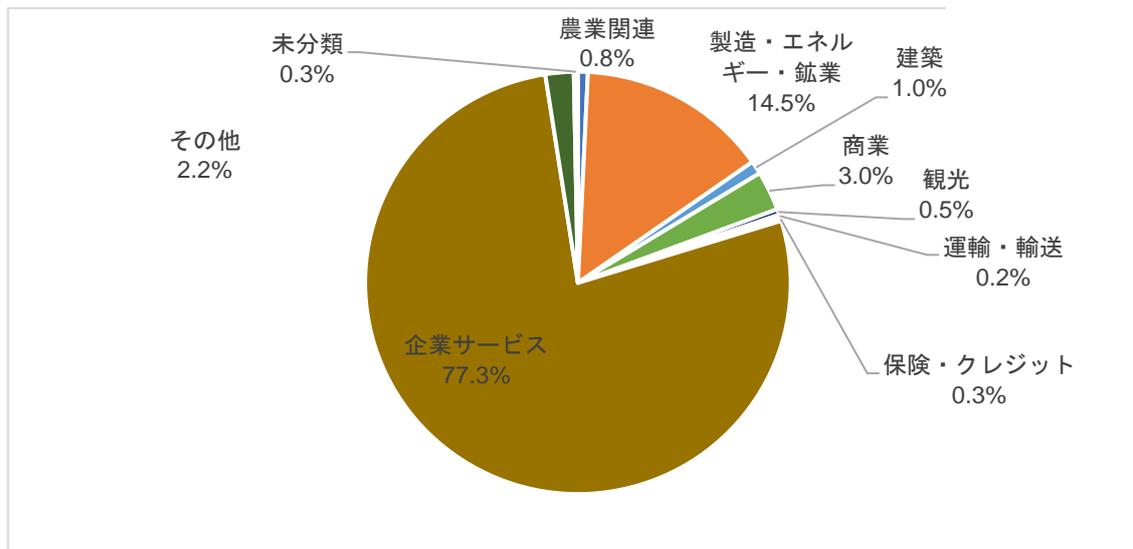
経済セクター	スタートアップ企業数	全企業に対するスタートアップの割合
農業関連	103	0.8%
製造・エネルギー・ 鉱業	2,010	14.5%
建築	139	1.0%
商業	417	3.0%
観光	62	0.5%
運輸・輸送	28	0.2%
保険・クレジット	39	0.3%
企業向けサービス	10,682	77.3%
その他	297	2.2%
未分類	43	0.3%
総合	1万3,820	100%

（出所）イタリア商工会議所資料を元に作成³

³ "Cruscotto di Indicatori Dati nazionali, Report con dati strutturali, Startup innovative, 3° trimestre 2023"

図2経済セクター別スタートアップの割合（2023年第3四半期）

（単位：％）



（出所）イタリア商工会議所, "Le imprese degli innovatori italiani" を元に作成

(2) スタートアップ企業における女性の活躍の割合

社員構成を見ると、女性が多数を占めるスタートアップ、つまり所有権と管理職を女性が大部分保持している企業は 1,910 社で、全体の約 13.8% となっている。これは女性が多数を占める新しい株式会社全体における 20.2% より低い割合となる。社員に少なくとも 1 人の女性がいるスタートアップ（女性が存在するスタートアップ企業）は 6,152 社で、全体の 44.5% を占め、前四半期より 23 社減少している。女性が存在するスタートアップの割合は、新しい株式会社全体の割合（43.4%）より約 1 ポイント高い水準に留まる。

(3) 若者の活躍の割合

35 歳未満が多数を占めるスタートアップ企業は 2,441 社で、全体の 17.7% となっている。これは前四半期と比べて増加しており、絶対値で 89 社、割合で 0.8% 増加している。また、一般的な新しい会社（13.7%）と比較して 4 ポイント高い割合となっている。さらに、社員に少なくとも 1 人の若者がいる企業は、全体の 41%（5,670 社）を占め、一般的な資本企業（30.4%）と比べてさらに大きな差がある。

(4) 外国籍を持つ社員構成の割合

外国人が多数を占める社員構成のスタートアップ企業は 529 社で、全体の 3.8% となる。増加傾向にあるが、一般的な新しい株式会社（11.4%）と比べると小さな割合である。一方、少なくとも 1 人の外国籍を持つイタリア在住市民がいるスタートアップ企業は 15.6%（2,161 社）で、一般的な株式会社（17.7%）と比較してわずかに低い割合となる。

表3.企業構成の傾向（2023年）

（単位：社、％）

2023	女性が多数を占める	若者が多数を占める	外国人が多数を占める	女性社員が1人以上	若者社員が1人以上	外国人社員が1人以上
スタートアップ企業数	1,910	2,441	529	6,152	5,670	2,161

全体割合	13.8%	17.7%	3.8%	44.5%	41.0%	15.6%
------	-------	-------	------	-------	-------	-------

（出所）イタリア商工会議所，“Le imprese degli innovatori italiani”を元に作成

(5)地域別にみるスタートアップ企業分布

地理的分布を分析すると、ロンバルディアはイタリアで最も多くのスタートアップ企業を抱える地域である。3,727社で、全国総数の約27%を占めている。次いでラツィオ州（1,729社、全体の12.5%）、カンパニア州には1,464のスタートアップ（10.6%）、エミリア・ロマーニャ州には990のスタートアップ（7.2%）。ベネト州が全国総数の6.5%で第5位に位置している（903社）。最後にバジリカータ州が120社（0.9%）、モリーゼ州が85社（0.6%）、バツレ・ダオスタ州が16社（0.1%）のスタートアップ企業がある。フリウリ・ベネチア・ジュリア州は、新しい資本会社の総数に対して最も高い割合でスタートアップ企業を抱えており（5年未満かつ年間売上が500万ユーロ未満）、その割合は4.82%となっている。このランキングでフリウリ・ベネチア・ジュリア州はロンバルディア州（4.75%）とトレンティーノ・アルト・アディジェ州（4.47%）をわずかに上回っている。ランキングの最後にはプーリア州、トスカーナ州、サルデーニャ州がある（すべて2.5%から2.7%の割合）。

(6)都市別で見るスタートアップ企業数

ミラノはイタリアで最も多くのスタートアップ企業を抱える県で、2023年第3四半期の終わりには2,689社、全国総数の19.5%がミラノに集中している。2位はローマで、唯一1,000社を超える県である（1,567社、全体の11.3%）。他の主要県はかなり離れており、トップ5には、ナポリ（768社、5.6%）、トリノ（541社、3.9%）、ボローニャ（約338社、2.5%）が含まれている。その後のトップ10までには、バーリ、サレルノ、ブレシア、パドバ、カタニアが含まれ、特にカタニアはランキングで上昇している。リストの下位10県は、15のスタートアップかそれ以下にとどまる。最低はベルチェッリ、続いてベルバーノ＝クシオ＝オッソラ県で、それぞれ3社と4社のスタートアップ企業がある。県内の新しい資本会社の数に対するスタートアップ企業の数とを考慮すると、トレントが最も高い割合（約6.2%）で、ミラノ（6.1%）、テルニ（5.9%）、ポルデノーネ（5.5%）、ラクイラ

(5.5%)が続いている。反対に、バルチェリは新しい資本会社の総数に占めるスタートアップの割合が最も少ない県となっている(0.6%)。

経済および財務指標については、まず前提として、現在利用可能な財務データ(2022年度のもの)は、2023年第3四半期に登録されたスタートアップの一部(1万3,820社中9,445社)のみをカバーしていることを指摘しておく必要がある。このように区分されたスタートアップ企業において、2022年度の企業ごとの平均生産額は22万3,947.31ユーロで、2021年と比較して大幅に増加(4万7,311ユーロ増)している。スタートアップ企業の平均総資産額は41万3,315.05ユーロ。最終的に、総生産額は、2021年と比べて約5億ユーロ増加し、21億ユーロ以上に達している。

表4.スタートアップの地域別分布と割合-地域ランキング(2023年第3四半期)

順位	州都	スタートアップ企業数	国全体に占める割合
1	ロンバルディア	3,727	26.97%
2	ラツィオ	1,729	12.51%
3	カンパーニャ	1,464	10.59%
4	エミリア・ロマーニャ	990	7.16%
5	ベネト	903	6.53%
6	ピエモンテ	762	5.51%
7	シチリア	716	5.18%
8	プーリア	633	4.58%
9	トスカーナ	629	4.55%
10	マルケ	322	2.33%
11	アブルッツォ	311	2.25%
12	トレンティーノ・アルト・アディジェ	266	1.92%
13	カラブリア	266	1.92%
14	フリウリ・ベネチア・ジュリア	244	1.77%
15	リグーリア	230	1.66%
16	ウンブリア	206	1.49%
17	サルデーニャ	201	1.45%
18	バジリカータ	120	0.87%
19	モリーゼ	85	0.62%
20	バッレ・ダオスタ	16	0.12%

(出所) イタリア商工会議所, Le imprese degli innovatori italiani より引用し作成

表5.スタートアップの県別分布と割合-県ランキング(2023年第3四半期)

順位	県	スタートアップ企業数	全国総数に占めるスタートアップ企業の割合
1	ミラノ	2,689	19.36%
2	ローマ	1,567	11.34%
3	ナポリ	768	5.56%
4	トリノ	541	3.91%
5	ボローニャ	338	2.45%

6	バーリ	333	2.41%
7	サレルノ	295	2.13%
8	ブレシア	260	1.88%
9	パドバ	244	1.77%
10	カターニア	240	1.74%
11	フィレンツェ	232	1.68%
12	ベルガモ	227	1.64%
13	カゼルタ	217	1.57%
14	ペローナ	215	1.56%
15	パレルモ	214	1.55%
16	ジェノバ	191	1.38%
17	トレント	158	1.14%
18	レッツェ	150	1.09%
19	モンザエブリンザ	142	1.03%
20	モデナ	140	1.01%

(出所) イタリア商工会議所, “Le imprese degli innovatori italiani”より引用し作成

3.イタリアのスタートアップが強みを持つ分野でのトレンド、企業数、投資額

(1)投資から見るトレンドセクター分析

イタリアは、欧州におけるスタートアップへの投資分野において台頭しており、EU域内の他の地域に比べて顕著な成長傾向を示している。イタリアのベンチャー企業グロスキャピタルにより発表された「イタリア第3四半期のベンチャーキャピタル最新動向」⁴によると、投資は増加傾向にあり、欧州の他地域と比べて加速度的な成長率を示している。

2023年第3四半期のセクター別で見ると、最も投資家に魅力的だったのはソフトウェア分野で、1億1,800万ユーロが投資された。これに続くのはディープテックとスマートシティとなっている。2022年と比べると、ディール数に低下傾向がみられ、164件で18.8%の減少となっている一方、エクイティ・クラウドファンディングによる資金調達には6,200万ユーロで、141件のオペレーションが行われた。

2023年の164ラウンドをテック分野別の割合で分析すると、85%がメドテック部門に関連している(図3参照)。次いで、クリーンテック、バイオテック、労働/HR(人事管理テクノロジー)分野に適用される技術への資金調達(6%)がある。次に、食品(4.2%)、ソフトウェア開発、エドテック、航空宇宙(3.6%)が続いている。モビリティ、サイバーセキュリティは3.0%だった。

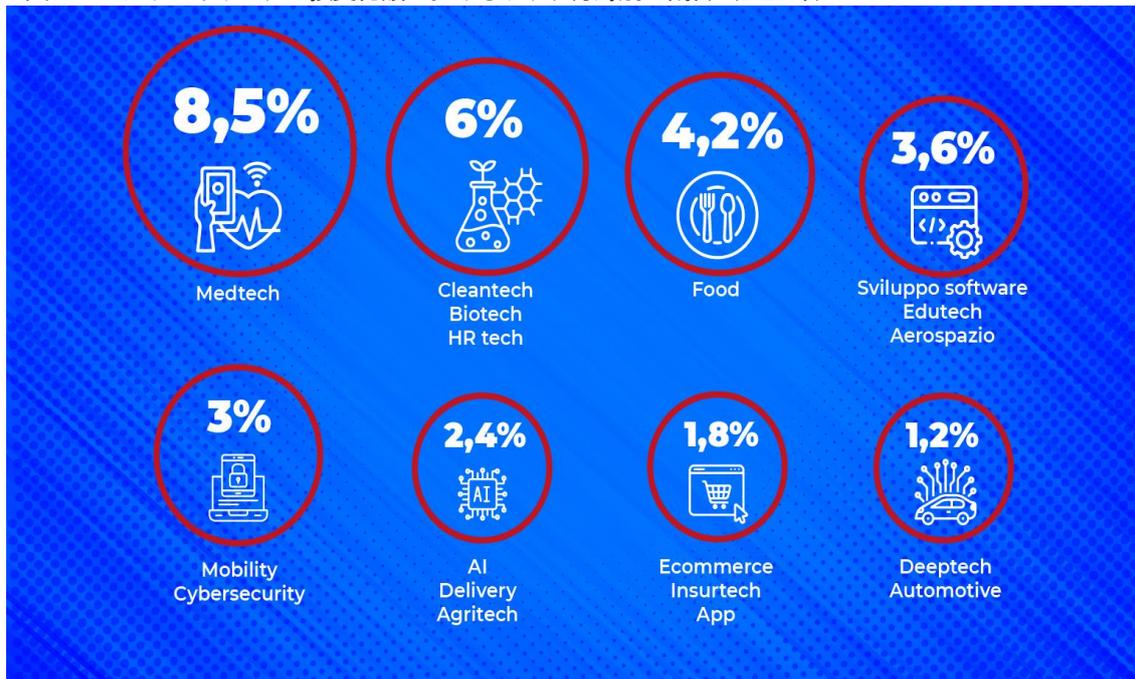
2023年は、量的観点から2022年と比べて一歩後退している。これは、1億ユーロを超える大規模ディールの不在と、米国スタートアップ銀行へ融資を行うシリコンバレー銀行(SVB)の破綻、世界的なインフレ、半導体チップと金属・鉱物の危機、ウクライナとパレスチナにおける2つの戦争の長期

⁴ Growth Capital, “Osservatorio sul Venture Capital Italia Q3-23”, 18/10/2023, <https://growthcapital.vc/wp-content/uploads/Osservatorio-sul-Venture-Capital-Italia-Q3-23-1.pdf>

化などが要因と見られる。これらを含むさまざまな外部要因による世界的な高い不確実要因が、投資家を慎重にしている。

全体のラウンドで集められた資金総額は11億3,035万846ユーロで、前年比51.5%の減少となった。ラウンドの規模に関しては、シリーズAが40.1%で最も多く、次いでシードラウンドが16.6%、シリーズCの資金調達率が12.8%、そしてプレシードが12%となっている。

図3.ベンチャーキャピタル投資総額におけるテック分野別の割合（2023年）



(注) 上部左からメドテック (8.5%)、クリーンテック、バイオテック、人事 (HR) テック (6.0%)、フードテック (4.2%)、ソフトウェア開発、エドテック、航空宇宙 (3.6%)、下部左からモビリティ、サイバーセキュリティ (3%)、人工知能 (AI)、デリバリー、アグリテック (2.4%)、eコマース、インシュアテック、アプリケーション (1.8%)、ディープテック、オートモーティブ (1.2%)
(出所) 「スタートアップイタリア2023年ラウンドと投資に関する年次報告書」を元に作成

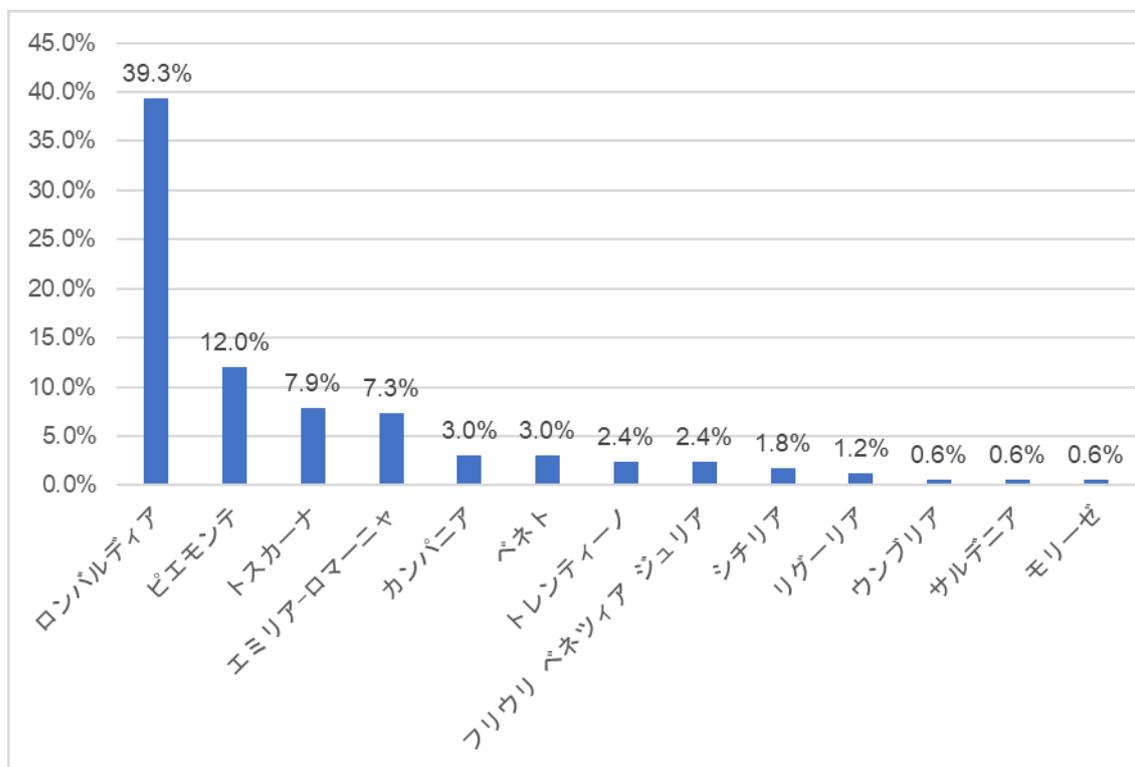
(2) 地域別に見る投資実績

地域別のランキングでは、ロンバルディアがディール数でトップ (39.3%) をけん引しており、次いでピエモンテ (12%)、トスカーナ (7.9%)、エミリア・ロマーニャ (7.3%) と続いている。昨年と変わらず、カンパニアでは5つのスタートアップがベネト (3%) と同様に投資を受けている。トレンティーノ・アルト・アディジェおよびフリウリ・ベネチア・ジュリアのスタートアップが主役となった4つのディール (2.4%) があり、それにシチリア (1.8%)、リグーリア (1.2%) が続く。ウンブリア、モリーゼ、サルデーニャはそれぞれ1つのオペレーション (0.6%) となっている。

⁵ StartupItalia, "That's round 2023 Report annuale su round e investimenti", 21/12/2023, <https://startupitalia.eu/startup/startup-nel-2023-investimenti-oltre-il-miliardo-ma-il-calore-del-5/>

図4.ベンチャーキャピタル投資総額における地域別割合

(単位：%)



(出所) “8°Report italiano sul CrowdInvesting”を元に作成⁶

(3) 2023年の新しいスタートアップの成長

2023年は、欧州および世界で重要な影響を与えることが予想される分野での新しいスタートアップの成長が特徴的な1年となった。世界的にはAIや機械学習といった技術の採用が増加し、これらはヘルステック、物流、サイバーセキュリティの分野で先進的に応用されている。

AIの採用は、メディアで取り上げられている以上により具体的なトレンドとなりつつあり、さらに欧州委員会では、再生可能エネルギーと持続可能なモビリティに焦点を当てたプロジェクトに60億ユーロ以上を割り当てており⁷、民間イニシアチブによってグリーンテックへの投資が前年比58%増加している。持続可能性の促進と気候変動との戦いに特に重点を置いたイニシアチブに注目しており、再生可能エネルギー、持続可能なモビリティ、リソースのスマートな管理（スマートテック）分野で数多くのスタートアップやソリューションが生まれている。

⁶ "Osservatori, Politecnico Milano School of Management, “8°Report italiano sul CrowdInvesting”, 07/2023

<https://www.osservatori.efi.it/efi/wpcontent/uploads/2023/07/reportcrowd2023.pdf>

⁷ European Commission, “EU invests €6.2 billion in sustainable, safe and efficient transport infrastructure”, 22/06/2023,

https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/IP_23_3436

ミラノのアクセラレーションプログラム「バークレイ・スカイデック・ヨーロッパ⁸」のバッチを分析することで、これらのトレンドが確認することができ、AI、バイオテクノロジー、輸送、サイバーセキュリティの分野で融合的に増加している傾向を見ることができる：

- 製薬研究のための先進的バイオテクノロジー

バイオテクノロジーと人工知能（AI）は、製薬研究を革命的に変えている。イタリアのスタートアップ企業 **BiomimX**(ビオミンエックス)⁹などは、薬の前臨床試験で使用するための機能的なミニ人間臓器を作成する技術を開発し、薬の開発時間を大幅に短縮し、臨床試験の効果を向上させている。

- 交通と物流における人工知能（AI）

AI と機械学習の輸送および物流業界への統合により、運用効率が向上している。**Cargoful**（カルゴフル）¹⁰や **Switch**（スイッチ）¹¹などのスタートアップは、これらの技術を利用してトラック運送の最適化と自動化、共有モビリティオペレーターの車両フリートの配布を行っている。

- 産業監視におけるイノベーション

新技術のおかげで産業分野の監視とモニタリングは常に進化している。**HyLight**（ハイライト）¹²などのスタートアップは、水素飛行船を開発し、上空からの監視において従来のドローンよりも革新的で持続可能で効率的な代替手段を提供している。

- 健康診断のための革新的なデバイス

診断デバイス業界は、医療診断の精度とタイミングを改善するために技術革新を取り入れている。**Gisens Biotech**（ジンセンズバイオテック）¹³などのスタートアップは、ナノ化学とバイオエレクトロニクスセンサーに基づく先進的な診断デバイスを開発し、慢性疾患の迅速かつ正確なテストと患者の治療アクセスを向上させている。

- 先進的治療法の開発のための人工知能（AI）

人工知能（AI）は、先進的治療法の開発を加速することも可能にしている。例えば、**Silica Corpora**（シリカ コルポラ）¹⁴は、抗体治療の発見の効率を向上させるために生成型 AI を利用し、新薬候補の確率を改善し、新薬の開発コストと時間を大幅に削減している。

- 人工知能（AI）アルゴリズムのためのサイバーセキュリティ

⁸ Berkeley Skydeck, <https://skydeck.berkeley.edu/milano/>

⁹ BiomimX, <https://www.biomimx.com/>

¹⁰ Cargoful, <https://cargoful.tech/>

¹¹ Switch, <https://getswitch.io/>

¹² HyLight, <https://www.hylight.aero/>

¹³ Gisens Biotech, <https://www.gisensbiotech.com/>

¹⁴ Silica Corpora, <https://www.silica-corpora.ai/>

AI アルゴリズムの採用が増加するにつれて、サイバーセキュリティは重要となっている。サイバーセキュリティに特化したスタートアップの Skyld (スカイルド)¹⁵ は、デバイス上の AI アルゴリズムを保護するソリューションを開発し、機密データのセキュリティを保証し、不正アクセスを防ぐことを目指している。

(4)投資傾向から見る 2024 年以降の注目すべきセクター

2024 年には、スタートアップが引き続き、医療、製造業、オートメーションなどの分野で AI と機械学習の統合に注力することが予想される。また、持続可能性への注目は焦点を保ち続け、モノのインターネット (IoT) は資源の監視と最適化において、ますます重要な役割を果たすと予想される。しかし、スタートアップ企業は、現在直面している急激な経済変動と世界的な不安定要因に迅速に対応し、戦略を変更する柔軟性が必要とされ、またより厳格な規制に適応した重要な投資に対する要求にも対応していく必要がある。持続可能性と社会的責任への実質的な取り組みを示すことの緊急性も見逃すことはできない。これは、これらの価値観を重視する消費者や投資家を引き付けるためにも不可欠な要素である。

2024 年のベンチャーキャピタルファンドの投資戦略は、昨年形成されたトレンドに基づく可能性が高く、特に、デジタルヘルス、グリーンテクノロジー、企業のレジリエンスを向上させる革新的なソリューションなど、成長している分野に焦点を当てていくことが予想される。

ここで、具体的に投資家の関心が高いと予測されるセクターを紹介する：

①量子技術とコンピュータ

量子技術と量子コンピュータは、医療からクリーンエネルギーまで幅広い分野に変革をもたらし、グローバルなサイバーセキュリティのアーキテクチャに劇的な変化を引き起こすことができる。量子コンピュータの登場により、通信の安全性を保持し、データの安全な保管のための新たなソリューションの必要性が高まってゆく。

②グローバル気候技術

米国の気候開示規則、欧州持続可能性報告基準 (ESRS)、国際持続可能性基準委員会のグローバル気候開示ガイドラインなどの提案により、企業は環境への影響の管理と報告を可能にする技術やソリューションへの投資を期待される。

③先進的な医療ケア

医療分野における革新は、AI、先進的なウェアラブルデバイス、より効果的な治療法などの技術により進んでいる。これらの進展は、健康とウェルネスへのアプローチを根本的に変え、医療専門家により高度なツールを提供し、患者の生存率を向上させることに貢献する。多くの新しいミッション主導型の企業がこの分野に参入し、革新と顕著な改善をもたらすと予想されている。

¹⁵ Skyld, <https://skyld.io/>

II. 政府によるスタートアップ企業へのインセンティブとサポートシステム

1. イタリア政府の主要な奨励プログラム

(1) 資金調達に関する支援

① スマート&スタートイタリア¹⁶

政府機関インビタリア (Invitalia) ¹⁷によって推進されているスタートアップ企業の誕生と発展を支援するために設立されたインセンティブで、10万~150万ユーロの企業開発プロジェクトの支出に対する無利息融資を提供する。2023年には、1,525のスタートアップ企業が融資を受け、活性化した投資は7億8,300万ユーロ、交付された補助金は6億400万ユーロに達し、約2,400の雇用が創出された。

表6. 「スマート&スタート2023」の概要

援助を受けたスタートアップ企業 1,525 (前年比 7.9%増)	活性化した投資額 7億8,300万ユーロ (前年比 42.4%増)	交付された補助金 6億400万ユーロ (前年比 13.5%増)	創出された雇用 2,400 (前年比 13.2%増)
---	---	---------------------------------------	----------------------------------

(出所) FONTE: Invitalia, “bando Smart & Start.” を元に作成¹⁸

② 中小企業向け保証基金への無料かつ簡素化されたアクセス¹⁹

スタートアップ企業は、中小企業のための保証基金への簡素化された、無料かつ直接的なアクセスを享受できる。同基金は、銀行ローンに対する保証を提供することで、信用へのアクセスを容易にする公的資本の基金。

③ エクイティ・クラウドファンディングによる資金調達

2013年、イタリアはエクイティ・クラウドファンディング市場を規制し、認可されたオンラインポータル²⁰の別レジストリを設立

(2) 運営・税制に関する支援

① シームレスなイノベティブ中小企業への変換²¹

成功した場合、成熟したスタートアップ企業は、イノベティブ中小企業へと成長し、スタートアップ企業に特化した商業登記簿の特別セクションからイノベティブ中小企業のセクションへと直接移

¹⁶ Invitalia, SMART&STARTITALIA, <https://www.invitalia.it/cosa-facciamo/creiamo-nuove-aziende/smartstart-italia/normativa>

¹⁷ イタリア経済産業省管轄の投資促進と企業開発を目的とした国家機関。 <https://www.invitalia.it/>

¹⁸ FONTE: Invitalia, “bando Smart & Start”., 1/12/2023, <https://www.invitalia.it/cosa-facciamo/creiamo-nuove-aziende/smartstart-italia>

¹⁹ Ministero delle Imprese e del Made in Italy, Fondo di garanzia, <https://www.fondidigaranzia.it/>

²⁰ European Securities and Markets Authority, <https://www.esma.europa.eu/document/register-crowdfunding-services-providers>

²¹ Ministero delle Imprese e del Made in Italy, PMI innovative, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/impresa/piccole-e-medie-imprese/pmi-innovative>

行し、特別セクションへの登録を維持しつつ、利用可能な利益を失うことなく継続することができる。

②スタートアップ企業へのデミニマス税制上のインセンティブ²²

このインセンティブは、スタートアップ企業やイノベティブ中小企業へのリスク資本投資を行う個人に対して、IRPEF (Imposta Sul Reddito delle Persone Fisiche) ²³控除の 50%を提供する。この優遇措置は「デミニマス規則」 (2013年 12月 18日の欧州委員会規則 (EU) 第 1407/2013号) に基づいて付与される。

③適合性ビザ (visto di conformità) の義務からの免除²⁴

付加価値税 (IVA) の債権が 5,000 ユーロを超える場合に、通常 F24²⁵モデルを利用し付加価値税 (IVA) クレジット控除に関する適合性ビザ (visto di conformità) 証明書の提出が義務づけられているが、いわゆる横断的な補填 (IVA 以外の税類を対象とする補填) の利用を妨げる可能性があることも示唆している。

④通常の法人統治規則に対する例外²⁶

有限責任会社 (s.r.l.) として設立されたスタートアップ企業には、特定の権利を持つ株式カテゴリーの作成 (例えば、投票権を付与しない株式カテゴリーや、持分に比例しない方法で投票権を付与する株式カテゴリーの設定が可能)、自己株式の取引、金融参加型商品の発行、公衆への株式資本の提供が許可されている。

²² Ministero delle Imprese e del Made in Italy, Startup e PMI innovative – Incentivi fiscali de minimis,

<https://www.mimit.gov.it/index.php/it/impresa/competitivita-e-nuove-impreses/start-up-innovative/incentivi-de-minimis#riferimenti>

Gazzetta Ufficiale, DECRETO 28 dicembre 2020,

<https://www.gazzettaufficiale.it/eli/id/2021/02/15/21A00897/sg#~:text=38%2C%20commi%207%20e%208,publicato%20nella%20Gazzetta%20Ufficiale%20n.>

²³ イタリアの個人所得税に対して課せられる税金

²⁴ Agenzia Entrate, CIRCOLARE N. 16/E, 11/06/2014,

https://www.agenziaentrate.gov.it/portale/documents/20143/298850/Circolare+n16E+del+11+giugno+2014_Circolare+n+16+del%2711+giugno+2014.pdf/f1708e26-0032-38e5-3ba3-b8c640745da4

²⁵ 個人や企業が税金を支払うために利用するフォーム

²⁶ Normattiva il portale della legge vigente, DECRETO-LEGGE 18 ottobre 2012, n. 179, <https://www.normattiva.it/uri-res/N2Ls?urn:nir:stato:decreto:legge:2012-10-18:179:vig=>

⑤VOUCHER 3I²⁷

「Voucher 3i-イノベーションへの投資」の措置は、スタートアップ企業のイノベーション・プロセスの価値を高めるために、特許取得のためのコンサルティング・サービスの導入を支援することを目的としている。

(3) 政府機関サービス利用に関する支援

①イタリア貿易促進機構 (ITA) のサービス²⁸

イタリア貿易促進機構 (ITA) は、規制、法人、税務、不動産、契約、クレジットに関する支援を提供する。スタートアップ企業は、カタログの商品やサービス購入に対して 30%の割引 (外部コストを除く) を受けることができる。

②商工会議所税と印紙税の免除²⁹

スタートアップ企業と公式認定インキュベーターは、商業登記簿の特別セクションに登録時点から、登録手続きに関する印紙税と登記に関する事務手数料の支払い、および商工会議所への年間費の支払いが免除される。

(4)ステークホルダーへの優遇支援

①スタートアップ企業への投資促進策

2017年1月1日から、スタートアップ企業へのリスク資本投資を行う投資家には、重要な税制上の軽減措置が用意されている (2017年度予算法³⁰)。

②資本参加型インストゥルメントによる報酬³¹

スタートアップ企業と公式認定インキュベーターは、従業員に社会資本への参加型インストゥルメント (例えば株式オプション) で報酬を提供し、外部サービスプロバイダーにワーク・フォー・エクイティ方式で報酬を提供することができる。

²⁷ "Incentivi.gov.it, Voucher 3I, <https://www.incentivi.gov.it/catalogo/voucher-3i-investire-innovazione-le-start-innovative>

Gazzetta Ufficiale,

https://www.gazzettaufficiale.it/atto/serie_generale/caricaDettaglioAtto/originario?atto.dataPubblicazioneGazzetta=2020-02-29&atto.codiceRedazionale=20A01296&elenco30giorni=true"

²⁸ Italian Trade Agency, Startup e PMI innovative, Descrizione settore, <https://www.ice.it/settori/startup-innovazione>

²⁹ Agenzia Entrate, CIRCOLARE N. 16/E, 11/06/2014,

https://www.agenziaentrate.gov.it/portale/documents/20143/298850/Cirolare+n16E+del+11+giugno+2014_Cirolare+n+16+del%2711+giugno+2014.pdf/f1708e260032-38e5-3ba3b8c640745da4

³⁰ "Ministero delle Imprese e del Made in Italy, "Guida all'uso dei piani azionari e del work for equity", 24/03/2014,

https://www.mimit.gov.it/images/stories/documenti/Guida_piani_azionari_e_work_for_equity.pdf "

³¹ Normattiva il portale della legge vigente, DECRETO-LEGGE 18 ottobre 2012, n. 179, <https://www.normattiva.it/uri-res/N2Ls?urn:nir:stato:decreto:legge:2012-10-18:179:vig=>

(5)その他の支援

ファスト・フェイル³²

事業が失敗した場合、スタートアップ企業は通常よりも迅速かつ負担の少ない手続きを利用して事業を終了させることができる。

(6)国立イノベーション基金

国立イノベーション基金 (FNI) は、カッサ・デポジティ・エ・プレスティーティ (預金・貸付金庫) によって管理され、イノベーションという戦略的テーマに捧げられた公共・民間のリソースを集約し、増やすことを目的とした指揮部によって運営されている。国立基金の運営手段はベンチャーキャピタルであり、革新的企業の資本における少数派株式への直接および間接的な投資を行い、スタートアップ企業、スケールアップ、中小企業を支援する。この基金は、才能や知的財産、その他の戦略的資産の継続的な割譲と散逸に対抗するため、国家の利益を守るために設立された。イノベーション基金には以下が含まれる：

- ・ アクセラレーター
- ・ ブースト・イノベーション基金
- ・ エボルツィオーネ基金
- ・ イタリア・ベンチャー基金
- ・ イタリア・ベンチャーII南部企業基金
- ・ ベンチャーイタリー基金
- ・ テクノロジー・トランスファー基金
- ・ ブースト・イノベーション基金
- ・ エボルツィオーネ基金
- ・ スタートアップ再生基金

対象者：企業登記簿の特別セクションに登録されているすべてのスタートアップ企業が対象

(7)クリエイティブ企業基金³³

2020年12月30日の法律第1条第109項および続項に基づき設立された中小クリエイティブ企業向け基金は、2021年と2022年のために4,000万ユーロの予算が割り当てられ、クリエイティブセクターで活動する企業の誕生、発展、強化を促進するために、助成金の交付、信用へのアクセスの促進、革新的な資金調達ツールの促進、その他のセクターの発展に向けた取り組みを行っている。

³² Normattiva il portale della legge vigente, DECRETO-LEGGE 18 ottobre 2012, n. 179, <https://www.normattiva.it/uris/N2Ls?um:nir:stato:decreto:legge:2012-10-18:179:vig=>

³³ Ministero delle Imprese e del Made in Italy, “Fondo per le piccole e medie imprese creative”, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/incentivi/fondo-per-le-piccole-e-medie-imprese-creative>

(8)イタリア実験計画³⁴

「Sperimentazione Italia」は、スタートアップ、企業、大学、研究センターが限られた期間、現行規則の一時的な例外を利用して、独自の革新的プロジェクトを試験的に運用可能。

(9)トランジション4.0計画³⁵

「Transizione 4.0」計画は、革新、グリーン投資、デザインなどの活動に特に注意を払っている。主な取り組みは以下の通り：

- ・資本財投資に対する税額控除³⁶
- ・研究、開発、革新、デザインに対する税額控除³⁷
- ・4.0 トレーニングに対する税額控除³⁸

(10)デジタル変革公募³⁹

2020年6月9日の省令は、成長法令第29条第5項から第8項に設立されたデジタルトランスフォーメーションの優遇措置を規定し、零細、小規模、中規模企業の製造プロセスの技術的およびデジタル変革を支援するために、国家産業4.0計画で特定された有効な技術の実装を目的としたプロジェクトの実施、およびデジタル技術ソリューションに関連するその他の技術の実施を目指している。

³⁴ Presidenza del Consiglio dei Ministri, Dipartimento per la trasformazione digitale, “Sperimentazione Italia”,

<https://innovazione.gov.it/progetti/sperimentazione-italia/>

³⁵ “Ministero delle Imprese e del Made in Italy, legge 27 dicembre 2019, n. 160,

<https://www.mimit.gov.it/images/stories/normativa/transizione40-2020.pdf>

“Transizione 4.0”, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/transizione40/>

³⁶ “Credito d’imposta per investimenti in beni strumentali”, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/incentivi/credito-dimposta-per-investimenti-in-benistrumentali>

³⁷ “Credito d’imposta ricerca e sviluppo, innovazione tecnologica, design e ideazione estetica”,

<https://www.mimit.gov.it/index.php/it/incentivi/credito-dimposta-rs>

³⁸ “Credito d’imposta formazione 4.0”, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/incentivi/credito-dimposta-formazione-4-0>

³⁹ Ministero delle Imprese e del Made in Italy, “Digital Transformation”, <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/incentivi/digital-transformation>

2. 主要エコシステム都市や地域におけるインセンティブおよびサポート体制

(1) ロンバルディア州／ミラノ

ミラノのスタートアップ企業は、2012年に定められた DL 179/2012⁴⁰によって一連のインセンティブの恩恵を受けることができる。これらは後に変更および統合され、現在の制度となっており、ミラノでのスタートアップ・エコシステムの構築に大きく貢献している。

これらのインセンティブは、以下を通じて革新的な企業の創設と発展を活性化するために設計されている：

- ・税制上の優遇措置
- ・行政手続きの簡素化
- ・クレジットへのアクセスの容易化

これらの措置は、特に最先端の分野で活動する企業にとって、より魅力的でダイナミックな企業環境を実現することを目指している。特に、スタートアップ企業には以下のような優遇支援を提供している：

- ・社会資本への投資に対して 50%の税額控除を行い、新たな資本の流入を促進し、企業のスタートアップおよび成長段階を支援する。
- ・これらの企業の持分の売却から生じるキャピタルゲインに対する税の免除を通じて、革新的な分野における投資と売却の良循環を促進する。
- ・スタートアップの設立手続きを簡素化することで、行政上の負担と事業活動の開始までの時間を短縮する。

さらに、この立法令は、環境、再生可能エネルギー、および保健分野で活動するスタートアップに対して特別なインセンティブを導入している。この税制上の措置は、持続可能な開発と集団的な福祉にとって戦略的に重要な領域での革新と企業のコミットメントを促進することを目的としている。

(2) ラツィオ州／ローマ⁴¹

ラツィオ州とローマ市はともに地域スタートアップ・エコシステムの革新と発展を支援しており、ラツィオ州は以下の改革を実施している：

- ・スタートアップに対する IRAP (Imposta Regionale sulle Attività Produttive: 地域税) ⁴²の免除

⁴⁰ Gazzetta Ufficiale, “DECRETO-LEGGE 18 ottobre 2012, n. 179”, <https://www.gazzettaufficiale.it/eli/id/2012/12/18/12A13277/sg>

⁴¹ Associazione ROMA STARTUP, “Roma - Ecosistema Startup Numeri, Strutture e Progetti”, <https://www.romastartup.it/Data/Sites/1/media/docs/rsecosystem-ita.pdf>

⁴² Borsa Italiana, “IRAP: cos'è e come si calcola”, 21/12/2022, <https://www.borsaitaliana.it/notizie/sotto-la-lente/irap.htm>

- ・民間セクターとのグラント・マッチングプログラム（スタートアップや初期段階のリサーチスピノフに対して3万~10万ユーロ補助）
- ・スケールアップ向け投資ファンド（プロジェクトあたり最大250万ユーロ補助）
- ・ベンチャーキャピタル運営者向けファンドオブファンド

(3)ピエモンテ州／トリノ

SCUP（Supporto ai programmi di consolidamento e crescita delle start up）-スタートアップ企業への支援⁴³

スタートアップの強化と成長プログラムの支援、および株主や第三者投資家による投資プロジェクトの統合と支援。このプログラムは、初期の探索フェーズや初期スタートアップフェーズを超え、迅速かつ顕著な市場浸透を告げる可能性を持つ小規模なスタートアップ企業による投資と開発プログラム（ビジネスプラン）の実現を支援している。

(4)カンパニア州／ナポリ

カンパニア・スタートアップ-2023⁴⁴

最小投資額7万ユーロ、最低貢献額5万ユーロ。最大貢献額は、最大投資額50万ユーロのプロジェクトに対して35万ユーロ。戦略的分野には宇宙、アグリテック、バイオテクノロジーおよび健康、文化財・観光および創造産業、エネルギー・環境および持続可能な建設、先進素材およびナノテクノロジー、ICTを活用した技術、交通および物流、ブルーグロース⁴⁵ファッションおよびデザインが含まれている。

⁴³ "Regione Piemonte, SCUP - Support for innovative start-ups,

<https://bandi.regione.piemonte.it/contributi-finanziamenti/scupsupportoallestartup-innovative/#~:text=Il%20Bando%20sostiene%20la%20realizzazione%20di%20programmi%20di,effettuare%20una%20rapida%20e%20significativa%20penetrazione%20del%20mercato.>

“Attached text of the procedure”, <https://bandi.regione.piemonte.it/system/files/Bando%20SC-UP.pdf>

⁴⁴ "Regione Campania, PRESENTAZIONE DOMANDA AVVISO STARTUP 2023, <https://servizi-digitali.regione.campania.it/ProgettiStartUp>

Regione Campania, “Startup innovative: dalla Regione Campania 30 milioni di euro per lo sviluppo di prodotti e servizi”, 19/06/2023 <https://www.regione.campania.it/regione/tematiche/magazine-innovazione/startup-innovative-dalla-regione-campania-30-milioni-di-euro-per-lo-sviluppo-di-prodotti-e-servizi?page=1>”

⁴⁵ Regione Campania, “Smart Specialization Strategy”, Blue Growth, 海洋、海、沿岸地域に関連した、スマートで持続可能かつ包括的な経済・雇用の成長 https://europa.regione.campania.it/wp-content/uploads/2022/10/Blue-Growth_Position-Paper-S3-2021-2027.pdf

(5) エミリア・ロマーニャ州／ボローニャ

スタートアップ企業の発展を支援するためのプログラム⁴⁶

エミリア・ロマーニャ州は、2021-2027年のプログラミング期間に、研究成果に関連する投資とスタートアップ企業の確立を支援することを目標としている。特に、アイデア生成から加速、スケールアップに至るまでのバリューチェーン全体にわたるイニシアチブの発展を促進することを意図している。本プログラムにより提供される資金は合計で500万ユーロとなっている。

(6) ベネト州／ベネチア

ベネチア・ロビゴ商工会議所と「テクノロジー・トランスファー・イノベーション」⁴⁷

企業活動の開始と運営に関するあらゆる側面についての無料かつ包括的なガイダンスを提供する革新的なサービスとなっている。

⁴⁶ Regione Emilia-Romagna, Sostegno allo sviluppo delle start up innovative, <https://fesr.regione.emilia-romagna.it/opportunita/2022/bando-per-il-sostegno-allo-sviluppo-delle-start-up-innovative>, https://fesr.regione.emilia-romagna.it/opportunita/2022/bando-per-il-sostegno-allo-sviluppo-delle-start-up-innovative/presentazione-domanda/bando_startup_innovative_2022_.pdf

⁴⁷ Trasferimento Tecnologico Innovazione, “Servizio Nuova Impresa: attività e servizi per gli aspiranti imprenditori”, 28/12/2023, <https://www.t2i.it/rassegna-stampa/servizio-nuova-impresa-attivita-e-servizi-per-gli-aspiranti-imprenditori/>, Camera di Commercio Venezia Rovigo, t2i-Trasferimento Tecnologico e Innovazione, <https://www.dl.camcom.it/saroiimpresa/saroiimpresa-cosa-puor-servire/servizi-per-start-up-innovativa>

III. 2023年に多くの資金を調達したスタートアップおよびイタリアの有望なスタートアップ⁴⁸

1. ロンバルディア州の代表的なスタートアップ企業

(1) ベンディングスプーン (Bending Spoons) (所在地: ミラノ)

スマートフォンアプリの開発・販売を行う企業で、1億7,000万の2ラウンドによる最大規模の投資調達を達成した。ステークホルダーには Durable Capital Partners Lp、Baillie Gifford、Cox Enterprises、Nb Renaissance、Nuo Capital、StarTIP が含まれる。

(2) ディー・オービット (D-Orbit) (所在地: コモ)

宇宙物流の先駆者で、1億ユーロ以上の資金を調達。リード投資家は日本の大手商社、丸紅で、他のステークホルダーには BofA、UniCredit、Eversheds Sutherland、Gianni&Origoni が参加している。

(3) エナジー・ドーム (Energy Dome) (所在地: ミラノ)

エネルギー消費の削減に焦点を当て、5,500万ユーロを調達。このファンドには 360 Capital、Barclays による「持続可能キャピタルインパクト」、Novum Capital Partners、Third Derivative が参加している。

2 注目すべきエグジット事例

2023年は、注目すべき「エグジット」（スタートアップ企業やベンチャー企業が成長した後の企業買収や株式公開）も行われた。例えばモノのインターネット (IoT) 分野においては、IoT製品を専門とするラツィオ州ローマのフィーロ (Filo) はトラベラー・イノベーション (Traveler Innovations) に買収された。

また、ペットの健康管理に特化したIoT分野のキッピー (Kippy) は、スイスのデータマーズ (Data mars) によって買収された。一方、イタリアのイレン (Iren) は、循環経済セクターで活動するレマット (Remat) の多数株を350万ユーロで取得した。さらに、ローマのソフトウエアハウス、バースボックス (Baasbox) もメグゼメディア (Mexemedia) に吸収合併され、メグゼメディアは企業規模を拡大した。

一方で、スタートアップ企業が他社を買収するという動きも見られた。2023年に注目する買収動向にリコン (Glickon) が挙げられる。この企業は、人材モニタリング分野においてAI技術とビッグデータ分析を活用しており、ティームサイト (Teamsight) というスタートアップ企業を買収した。

⁴⁸ データは「ベンチャーキャピタルに関するオブザーバトリオ」による2023年第3四半期の統計に関するものである。StartupItalia, "Startup, nel 2023 investimenti oltre il miliardo, ma il calo è del 51%", 21/12/2023, <https://startupitalia.eu/startup/startup-nel-2023-investimenti-oltre-il-miliardo-ma-il-calo-e-del-51/>

また、AIソリューションを開発するコンテンツ（Contento）がトラドゥツィオーネ・プント・イト（Traduzione.it）を100%買収したことも注目を集めた。

IV. エコシステムの主要なステークホルダー

1.ベンチャーキャピタル・ファンド

ベンチャーキャピタル・ファンドとは、高い成長ポテンシャルを持つスタートアップや新興企業への資本投資を行う企業や団体を指す。このタイプの投資は、従来の資金調達形態にアクセスできないスタートアップ企業にとって特に重要である。

イタリアのロンバルディア州は、ファンドのターゲット企業が最も集中している地域であり、124社を抱えている。それとピエモンテ州（29社）を合わせると、市場の54%を占めている。しかし、前年と比較して、投資の国内カバレッジがあり、投資家の存在感と分散が同時に増やしている。セクター別では、ICTがベンチャーキャピタル投資家の関心を引き、市場の39%を占めている。次いで、フィンテックが2位に、ヘルスケアとエネルギー・環境がそれに続いている。

表7.イタリアの州ごとの主要なベンチャーキャピタル・ファンド⁴⁹

ロンバルディア州:

企業・団体名	都市名
<u>035 investimenti</u>	ベルガモ
<u>360 Capital Partners</u>	ミラノ
Ad4Ventures	ミラノ
<u>Alchimia</u>	ミラノ
AVM Gestioni	ミラノ
<u>Azimut</u>	ミラノ
<u>BHeroes</u>	ミラノ
<u>Club Italia Investimenti 2</u>	ミラノ
EUREKA! Venture	ミラノ
<u>Finlombarda</u>	ミラノ
<u>Fondo Italiano d'Investimento sgr</u>	ミラノ
<u>Growth Engine</u>	ミラノ
<u>HAT</u>	ミラノ
<u>Iconium</u>	ミラノ
Indaco Venture Partners sgr	ミラノ
Innogest	ミラノ
<u>Italian Founders Fund</u>	ミラノ
<u>Kairos Partners</u>	ミラノ

⁴⁹ Network Digital 360, "LALISTA Chi investe sulle startup: tutti i fondi di venture capital in Italia da conoscere 26/02/2024,

<https://www.economyup.it/innovazione/chi-investe-sulle-startup-tutti-i-fondi-di-venture-capital-in-italia-da-conoscere/>

<u>Key Capital</u>	ミラノ
<u>Como Venture</u>	コモ
<u>LCA Ventures</u>	ミラノ
<u>Medixea Capital</u>	ミラノ
<u>Milano Investimenti sgr</u>	ミラノ
<u>MITO Technology</u>	ミラノ
<u>Moonstone</u>	ミラノ
<u>Oltre Impact</u>	ミラノ
<u>Opes Impact Fund</u>	ミラノ
<u>P101</u>	ミラノ
<u>Panakes Partners</u>	ミラノ
<u>Prana Ventures</u>	ミラノ
<u>Primo Ventures</u>	ミラノ
<u>Redseed Ventures</u>	ミラノ
<u>Riello Investimenti Partners sgr</u>	ミラノ
<u>Sofinnova Partners</u>	ミラノ
<u>Startup Gym</u>	ミラノ
<u>Step Venture</u>	ミラノ
<u>Synergo Capital</u>	ミラノ
<u>TechEnergy Ventures</u>	ミラノ
<u>The Techshop</u>	ミラノ
<u>Tim Ventures</u>	ミラノ
<u>United Ventures</u>	ミラノ
<u>Xyence Capital</u>	ミラノ

ラツィオ州:

企業・団体名	都市名
<u>Angelini Ventures</u>	ローマ
<u>Archangel AdVenture</u>	ローマ
<u>CDP Venture Capital sgr</u>	ローマ
<u>FARE Venture</u>	ローマ
<u>Invitalia</u>	ローマ
<u>Lumen Ventures</u>	ローマ
<u>LVenture Group</u>	ローマ

Pi Campus	ローマ
Zernike Meta Ventures	ローマ

ピエモンテ州:

企業・団体名	都市名
<u>Claris Ventures</u>	トリノ
<u>dPixel</u>	トリノ
<u>Equiter</u>	トリノ
<u>Feat.Ventures</u>	トリノ
Euroventures	トリノ
<u>Innogest</u>	トリノ
<u>LIFTT</u>	トリノ
<u>Neva</u>	トリノ
<u>SocialFare Seed</u>	トリノ

エミリア・ロマーニャ州:

企業・団体名	都市名
Gellify	カザレッキオ・ディ・レーノ
<u>Utopia sis</u>	ボローニャ

トスカーナ州:

企業・団体名	都市名
<u>Fondo Rotativo Imprese Innovative</u>	ピサ
<u>Sici (Sviluppo Imprese Centro Italia)</u>	フィレンツェ

トレンティーノ・アルト・アディジェ州:

<u>Trentino Sviluppo</u>	ロベレート
--------------------------	-------

ウンブリア州:

<u>Gepafin</u>	ペルージャ
----------------	-------

カンパニア州:

<u>Vertis</u>	ナポリ
---------------	-----

2スタートアップスタジオ/ベンチャービルダー

シード期のスタートアップに資金と経営リソースを提供するスタートアップスタジオやベンチャービルダーは、イタリアにおいてすでにくつか設立され、確立されている。新しいビジネスの創出、スケールアップ、そしてエグジットを通してイノベーションや経済成長、またイノベーションハブやエコシステムの中心的な役割を果たしている。また、新しく設立されたものも多数あり、ここでは代表的なイタリアで活動するスタートアップスタジオまたベンチャービルダーとその活動内容を紹介する。

・ドディチベンチャー (12Venture)

2023年に立ち上げられたドディチベンチャーは、イタリアで最初のエドテックおよびHRテック分野のスタートアップスタジオ。教育と雇用の分野で8つの運営会社を持つベンチャービルダーであるEnzima12の文脈で生まれたスタートアップである。

・キューブラブズ (CubeLabs)

キューブラブズは、イタリアのヘルスケア技術分野のベンチャービルダーで、ライフサイエンスの学術研究と商業市場の間のギャップを埋めるために設立された。2014年にシュアレス (Surace) グループによって設立され、同名の家族によって運営され、ヘルスケアサービスで活動するキューブラブズは、2023年3月からユーロネクスト・グロース・ミラノ株式市場に上場した。有望な研究開発活動から新しい企業を創出し、先駆的な科学をヘルスケアソリューションに変えるイノベーションを推進し、国際ネットワークと協力している。

・ファーストバイト (First Bite)

2021年に設立されたファーストバイトは、イタリアで最初のフードテック分野のスタートアップスタジオである。企業や投資家とのシナジーを通じて、企業を市場に導入し、食品と技術を結ぶエコシステムへの統合まで導いている。同社は、国際的な業界トレンドを常に研究し、アジアや米国で成功したビジネスモデルや、欧州にはまだ存在しない新しいイノベーション、食品および農業食品技術関連の新技术を研究所から探求している。新しい革新的な企業の開発プログラムの終了時には、ベンチャーキャピタリスト、プライベート投資家、企業へ全面的にプレゼンテーションを企画し、最初の資金調達を締結して自分のアイデアを立ち上げることを目指している。

・フールファーム (FoolFarm)

2020年7月に設立され、翌2021年12月には30人の新しい社員が加わり、合計210万ユーロの資本を調達し、2つの特許を取得している。イノベーションハブとしての位置づけで、内部プロジェクトからスタートアップを開発するスタートアップスタジオ・モデルの適用や、特定の革新を求めている企業のためにサービスとして開発するという方法で、スタートアップを育成している。さらに、AIに基づくソリューションにのみ焦点を当てている。

・キタザノス (Kitazanos)

サルデーニャ島のキャリアに拠点を置く、南イタリアでは数少ないスタートアップスタジオの1つ。イノベーション業界で20年以上の経験を持ち、運営地域の周辺環境と強く結びついている。2つの活動で構成されており、ベンチャービルダーとイノベーションハブを持っている。

・ママゼン (Mamazen)

2017年に設立され、2018年から活動を開始したイタリアの先駆的なスタートアップスタジオの1つで、毎年1~2社の成功したスタートアップを創出することを目指している。社会的にポジティブなインパクトを持つデジタル企業に焦点を当てている。現在、IH1 (アイエイチワン) というホールディング会社が活動に加わり、今後数年間で1,000万ユーロを投資する予定で、そのうち300万ユーロが同社に、残りの700万ユーロが、スタジオが立ち上げるトップ10のスタートアップに投資される予定となっている。スタジオは100以上のアイデアを生み出し、カスタマーディスカバリーを通じて興味を測定し、次にテストフェーズに移り、50、その後10、最終的には1~3のアイデアに絞り込み、市場に投入していく。2022年3月、アイエイチワンは165万ユーロの最初のクロージングを発表し、これは以前のママゼンによる75万ユーロの資金調達に加わることになる。合計240万ユーロが新しいスタートアップの創出に投資される。この取引により、コロンビアの投資ファンド、アシリ (Asiri) がグループの最初の国際投資家として参加することとなった。

・ナナビアンカ (Nana Bianca)

2012年に設立されたフィレンツェのスタートアップスタジオで、創設者は1995年に設立されたインターネット企業ダダ (Dada) の創設者でもある。彼らの現在の哲学は、スタートアップをサポートする際、金融資本よりも人的資本の価値を最大限に高めているという特徴を持つ。

・スタートアップ・ベーカリー (Startup Bakery)

ミラノのカンパニービルダーで、2020年から内部および外部のプロフェッショナルな混成チームを組み立て、スタートアップでの経験を持つ人々を集めて活動している。これにより、より効率的に新しいスタートアップの創出と開発を実現しており、2022年からは4カ月に1社のペースで新たなスタートアップを創設している。最近では75万ユーロの投資ラウンドを成功裏に終え、立ち上げたスタートアップのエグジットを実現する目標で運営を続けている。

・ベント (Vento)

2021年から活動している新しいベンチャービルダーで、エクソール (Exor) の支援とタレント・ガーデン (Talent Garden)、OGR トリノ、サンパオロ関連会社 (Compagnia di San Paolo) とのパートナーシップの下、毎年 10 チームを支援し、大企業からの課題に応えるスケーラブルなテック企業を市場に投入することを目指している。例えば、テレパス (Telepass)、リプライ (Reply)、ユニクレディット (UniCredit) などが挙げられる。既存の他のモデルと異なり、同社は創出されたスタートアップの株式を取得せず、成功報酬も発生しない。エクソールの支援を受けて誕生したベントは、大企業の構築に取り組むホールディングカンパニーであり、ESG (環境・社会・ガバナンス) 戦略と持続可能な開発の分野で若い才能の起業プロジェクトを支援することに力を入れている。

・ダブリュ・ディー・エー (WDA)

持続可能なデジタルスタートアップや中小企業を構築、管理し、有望なプロジェクトの共同創設者として活動している。

3. ビジネス・エンジェル (エンジェル投資家)⁵⁰

創業後間もないベンチャー・ビジネスに対して投資する個人投資家のことをビジネス・エンジェルまたはエンジェル投資家という。ベンチャーキャピタルが高リスクの投資を通じて高いリターンを目指すのに対し、ビジネス・エンジェル (BA) の介入は経済的・財務的な要因に加え、特定の分野への個人的な興味や自身のコミュニティの発展への貢献など、異なる動機による場合もある。

今日のイタリアでは、1,600人以上のアクティブなビジネス・エンジェルがおり、そのうち 66%が 33のビジネス・エンジェル・グループ (BAG) やビジネス・エンジェル・ネットワーク (BAN) の少なくとも 1つに登録している。これは、ビジネス・エンジェルの組織がエコシステムの成長において果たす基本的な役割を証明している。具体的には、イタリアには 17の BAG (北西部に 11、北東部に 4、中部に 2) と 16の BAN (北西部に 7、北東部に 2、中部に 5、南部および島嶼部に 2) が運営されている。

(1) ビジネス・エンジェル・グループ (BAG)

類似の興味を持ち、革新的な企業への共同投資に積極的なビジネス・エンジェルを集める組織を指します。同組織は、投資機会の研究と選定に専念する専任スタッフを持つことが多い。BAGの例としては、インベスティトリー・クラブ (Club degli Investitori) やイタリアン・エンジェルズ・フォー・グロース (Italian Angels for Growth) がある。

(2) ビジネス・エンジェル・ネットワーク (BAN)

ビジネス・エンジェルと資金を求める起業家を結びつけ、起業イニシアチブの発展を促進するコミュニティを指す。同組織では、参加する投資家への投資サポートやエンジェル投資に関するトレー

⁵⁰ "Social Innovation Monitor; "BUSINESS ANGEL IN ITALIA: L'IMPATTO DELL'ANGEL INVESTING Report 2023"

<https://socialinnovationmonitor.com/report-impatto-business-angel-italiani/>

ニングも提供している。イタリアン・ビジネス・エンジェル・ネットワーク (IBAN) は国立の BAN であり、イタリアの地方の BAN にとってのレファレンス・ポイントとなっている。

(3) ビジネス・エンジェル・プラットフォーム (BAP)

BAG と BAN に加えて、ビジネス・エンジェルを集める新しいタイプの組織が存在し、その 1 つが ビジネス・エンジェル・プラットフォーム (BAP) という。BAG と同様、革新的な企業への共同投資に意欲的なビジネス・エンジェルを集めており、投資機会の研究と選定に専念する専任スタッフが多く在籍している。BAG や BAN とは異なり、BAP は主にデジタルプラットフォーム上で運営している。BAP の例としてはドアウェイ (Doorway)⁵¹がある。

(4) 社会的影響力の大きい BAG と BAN

エンジェル投資の新しいグループ形態の 2 つ目として、社会的影響力の大きい BAG と BAN が大きな組織を構成している。これらの組織は、主に社会的または環境的影響の大きい組織、つまり社会的イノベーションを導入する組織に投資するメンバーが所属している。その 1 つの例としてはエンジェルフォーインパクト (Angel4Impact) がある。

2018～2022 年の期間に、これらのプレイヤーは 120 以上の資金調達ラウンドに参加し、合計で 4,500 万ユーロ以上を投資している。

ラウンドの種類に関しては、BAG と BAN は主にシードラウンドを優先している。また、より進んだ投資ステージ (シリーズ A および B+) においても BAG と BAN の存在が確認されており、これは通常、以前に投資された企業へのフォローオンに帰するものと言える。

セクターに目を向けると、BAG と BAN は主にデジタル (27 ラウンド)、ライフサイエンス (25 ラウンド)、フィンテック (17 ラウンド)、スマートシティ (16 ラウンド) の企業に投資している。ロンバルディア、ピエモンテ、ラツィオが、ラウンド数と投資額の両方で最も代表的な地域である。

⁵¹ Doorway, <https://www.doorwayplatform.com/it>

表8.地域ごとのビジネス・エンジェルの数と割合

地域	数	割合
北西地域	945	57%
北東地域	211	13%
中央地域	258	15%
南部地域および諸島	21	4%
海外 もしくは不明	196	11%
合計	1,671	100%

(注) 各地域の数の足し上げと、記載の合計値とは一致しないが、出所どおりに記載。

(出所) Innovationnation を元に作成²²

表9.州ごとのビジネス・エンジェルの数

州名	数	州名	数	州名	数	州名	数
ロンバルディア	687	フリウリ・ベネチア・ジュリア	23	ウンブリア	11	サルデーニャ	5
ピエモンテ	240	リグーリア	16	ラツィオ	174	シチリア	15
ベネト	73	トレンティーノ・アルト・アデジェ	23	カンパニア	20	プーリア	17
トスカーナ	60	エミリア・ロマーニャ	92	モリーゼ	0	バジリカータ	4
バーレ・ダオスタ	2	マルケ	7	カラブリア	0	アブルッツォ	6

(出所) Innovationnation を元に作成²²

イタリアにおいて、特定されたビジネス・エンジェルの合計のうち70%以上が北部で活動している。ミラノを擁する北部ロンバルディア州は最も多くのビジネス・エンジェルが活動している地域であり、トリノを擁する北部ピエモンテ州とローマを擁する中部ラツィオ州がそれに続いている。南部・諸島地域は、エンジェル投資に関連する組織の数が最も少ない。

²² Innovationnation, “La mappa dei business angel in Italia: sono 1600, ecco dove sono e quanto hanno investito”, 11/01/2024,

<https://www.innovationnation.it/mappa-business-angel-italia/>

表10.イタリアのBAGおよびBANの数

ビジネス・エンジェル・グループ(BAG)	17
ビジネス・エンジェル・ネットワーク(BAN)	16

(出所) Innovationnation を元に作成

表11.イタリアのBAGおよびBANの地域別の数と割合

地域	BAG		BAN		合計	
	数	割合	数	割合	数	割合
北西地域	11	64.7%	7	43.8%	18	54.5%
北東地域	4	23.5%	2	12.5%	6	18.2%
中心地域	2	11.8%	5	31.2%	7	21.2%
南部・諸島	0	0.0%	2	12.5%	2	6.1%
合計	17	100%	16	100%	33	100%

(出所) Innovationnation より引用し作成

4.スタートアップ・アクセラレーター

イタリアのスタートアップ・アクセラレーター⁵³⁾はスタートアップ企業がインキュベーターによる支援状態から脱し、あるいは独自に初歩的なステップを踏んだ後、事業が一定の安定構造を持ち始め、製品やサービスの開発が進行し、チームが一定レベルの組織化を達成し、市場で最初のシェアを獲得し始めた時点で、成長を加速させるための後押しを必要とする状況に対応している。アクセラレーションプログラムは、教育サービス、メンタリング、トレーニングを通じてサポートを提供し、スタートアップ企業に特化したものとなる。これらのサービスを受けるスタートアップは、初期段階ではあるが、インキュベーション段階よりも進んだ事業状態にある。アクセラレーションプログラム後、スタートアップは独自に資金調達を行う能力を持ち、独立して事業を運営する能力を持つ段階になる。もし達成できなければ、別のアクセラレーターを利用する道もある。ただし、アクセラレーターは通常、投資の対価として7~10%の株式などのエクイティを要求する。一部のアクセラレーターは、スタートアップが市場で安定し、価値を獲得した後にのみ支払いを行う「ワーク・フォー・エクイティ」方式を採用している。アクセラレーターは、一方では財務・経営面のコンサルティングを、他方

⁵³⁾ StartupItalia “Incubatori e acceleratori di startup in Italia: quanti sono e come aiutano founder e ceo. Tutti i dati da nord a sud”, 03/03/2023, <https://startupitalia.eu/startup/incubatori-e-acceleratori-di-startup-in-italia-quant-sono-e-come-aiutano-founder-e-ceo-tutti-i-dati-da-nord-a-sud/>

では資金を提供するシードおよびセカンドステージのプログラムを提供し、その種類は以下の通り 2 つある。

(1) 2~4カ月のシードプログラム

新たに誕生したスタートアップを初期段階のプロジェクトに導いてゆく。アクセラレーターは、新しい投資家や他の企業にプロジェクトを提示するために必要なすべてのドキュメントの作成など起業家をサポートする。シードプログラムでは、アクセラレーターがインキュベーターのように、スタートアップに必要なワークスペースと設備を提供することもある。

(2) 2~6カ月のセカンドステージ・プログラム

より成熟したスタートアップを対象とし、この期間中にスタートアップは知名度が上がるように努め、他の企業とのネットワーキングを通じてビジネスの機会を創出し、コスト削減や生産性向上に取り組む必要がある。プログラムへのアクセスは万人に開かれているわけではなく、アクセラレーターに選ばれ、興味を持たれたものだけがプログラムとその利点を享受できる。公的投資家と私的投資家の両方がアクセラレーターのパートナーとなることがある。そして、業界の専門家であるビジネス・エンジェルが、アクセラレーターに委託されたスタートアップに投資する。このシステムにより、各メンバーが利益を享受するネットワークが形成される。アクセラレーターの一員となることは、成長の過程での安全性の確保を意味し、特に困難な時期には、あらゆる種類のサービスやサポートに役立つことを意味する。

表 12. イタリアのアクセラレーター（都市・町別）

ローマ市：

<u>Fondazione ItaliaCamp</u>	<u>Luiss Enlabs</u>	<u>Pi campus</u>	<u>Acceleratore Imprese</u>	<u>Zero Cleantech</u>
<u>Startupbootcamp FoodTech</u>	<u>Bravo Innovation Hub</u>	<u>Marzotto Venture Accelerator</u>	<u>Digital Xcelerator</u>	<u>WeSportUp</u>

ミラノ市：

<u>BioUpper</u>	<u>BiovelocITA</u>	<u>Fashion Technology Accelerator</u>	<u>ACube</u>	<u>Plug & Play</u>	<u>Fintech Accelerator</u>
<u>Boox</u>	<u>Innovits</u>	<u>Le Village</u>	<u>Nuvolab</u>	<u>Wise Guys</u>	<u>Bocconi for innovation</u>

ナポリ市：

<u>SeedUp</u>	<u>NASStartup</u>
---------------	-------------------

トリノ市：

<u>Techstars</u>	<u>Socialfare Impresa Sociale</u>
------------------	-----------------------------------

その他の地域：

企業・団体名	市・町 (州)
<u>Motor Valley Accelerator</u>	モデナ(エミリア・ロマーニャ)
<u>Cesena Lab</u>	チェセナ(エミリア・ロマーニャ)
<u>Climate-Kic Startup Accelerator Italy</u>	ボローニャ(エミリア・ロマーニャ)
<u>Gellify</u>	カザレッキオ・ディ・レーノ (エミリア・ロマーニャ)
<u>PrimoMiglio</u>	リミニ(エミリア・ロマーニャ)
<u>Upidea</u>	レッジョ・エミリア(エミリア・ロマーニャ)
<u>Open Campus Tiscali</u>	カリアリ(サルデーニャ)
<u>Digital Hub</u>	ノヴァッキオ・ピサ(トスカーナ)
<u>Industrio Ventures</u>	ロベレート(トレンティーノ・アルト・アディ ジェ)
<u>H-Farm</u>	トレヴィーズ(ベネト)
<u>Futured</u>	トレヴィーズ(ベネト)
<u>CyberXelerator</u>	コセンツァ(カラブリア)
<u>TheQube</u>	レッチェ(プーリア)
<u>Nazarè Onde Alte</u>	ベネチア(ベネト)

(出所) StartupItalia より引用し作成

5.インキュベーター

インキュベーターは、スタートアップ企業のシード段階をサポートする施設で、ビジネスアイデアやプロジェクトを取りまとめ、支援する組織となっている。一般的に、インキュベーションのプロセスは数カ月から数年におよぶ。インキュベーターは新興企業に多様なサービスを提供しており、専門的

なコンサルティング、ビジネスモデルの定義、トレーニングプログラムとメンタリング、ネットワーキングの機会、投資家へのアクセス・サポート、物理的なスペースや作業ツールが含まれている。インキュベーターは公的機関や民間企業によって運営されており、様々なタイプが存在している。

インキュベーターは、主に以下のとおり分類される：

- ・公的インキュベーター（最多）と民間インキュベーター
（民間のインキュベーターの中には、独立したものと大企業に属するものがある。）
- ・企業・メイドインイタリー省によって認定されたインキュベーター⁵⁴
（これらはいくつかの優遇措置を享受している。）
- ・認定されていないインキュベーター
（ビジネス・イノベーション・センター（BICs）として知られている。）
- ・大学のインキュベーター

表 13.イタリアのインキュベーターの地域別分布と数

州都	インキュベーターの数
アブルッツォ	1
バジリカータ	1
カラブリア	1
カンパニア	8
エミリア・ロマーニャ	2
フリウリ・ベネチア・ジュリア	4
ラツィオ	7
リグーリア	2
ロンバルディア	10
マルケ	3
ピエモンテ	5
プーリア	4

⁵⁴ Ministero delle Imprese e del Made in Italy, “Incubatori certificati”, <https://www.mimit.gov.it/it/impresa/competitivita-e-nuove-imprese/start-up-innovative/incubatori-certificati>

サルデーニャ	2
シチリア	1
トスカーナ	3
トレンティーノ・アルト・アディジェ	2
ウンブリア	1
ベネト	5
イタリア合計	62

(出所) INFOCAMERE, [Registro Imprese](https://www.registroimprese.it) からデータを引用し作成⁵⁵

表 14. イタリアのインキュベーターの企業名と活動都市

企業名	活動都市
FVB	アンコーナ
AC75 STARTUP ACCELERATOR	アンコーナ
SCIENTIFICA	ラクイラ
INCUBATORE S.E.I.	アベリーノ
THE HUB BARI	バーリ
DPIXEL	ピエリア
STARTUP EUROPA	トレクローゼ
ALMACUBE	ボローニャ
NOI	ボルツァーノ
THE NET VALUE	カリアリ
FARE IMPRESA	カゼルタ
012FACTORY	カゼルタ
SVILUPPO COMO - COMONEXT	コモ
ENTOPAN INNOVATION	カラッファディカタンザ ーロ

⁵⁵ INFOCAMERE, [Registro Imprese](https://www.registroimprese.it), <https://www.registroimprese.it/infocamere>

ENRYS ISLAND	イゾラトレミティ
SERVIZI INTEGRATI D'AREA	フォルリ
TIGULLIO DIGITAL	キャバーリ
PWC ACCELERATION CENTER ITALY	ジェノバ
TQC	レッツェ
DIGITAL MAGICS	ミラノ
TECHINNOVA	ミラノ
IMPACT HUB	ミラノ
ACUBE SOCIETA' BENEFIT	ミラノ
POLIHUB	ミラノ
BIO4DREAMS	ミラノ
LE VILLAGE BY CAMILANO	ミラノ
H PRO HUB	ミラノ
OPIFICIO 4.0	ミラノ
GIFFONI INNOVATION HUB	ナポリ
CAMPANIA NEWSTEEL	ナポリ
INCUBATORE CAMPANO	ナポリ
INCUBATORE DI IMPRESA DEL PIEMONTE ORIENTALE	ノバラ
PARADIGMA	パドバ
POLO NAVACCHIO	カッシーナ
DIGITAL HUB	カッシーナ
POLO TECNOLOGICO ALTO ADRIATICO ANDREA GALVANI	ポルデノーネ
BP CUBE	ペザロ
SEREA	ポテンツァ
INNOVA	ローマ
LAZIO INNOVA	ローマ

LVENTURE GROUP	ローマ
MARZOTTO VENTURE ACCELERATOR	ローマ
PI CAMPUS	ローマ
PEEKABOO	ローマ
SINAPSI	ローマ
INCIBUM LAB	ポンテカニャーノ・フ アイアーノ
PLURIVERSUM	シエナ
ABINSULA	サッサリー
CO.M.I.OS. (COOPERATIVA MITILICOLTORI OSTRICOLTORI)	タラント
TRENTINO SVILUPPO	ロベレート
INCUBATORE DEL POLITECNICO	トリノ
SOCIETA' PER LA GESTIONE DELL'INCUBATORE DI IMPRESE E IL TRASFERIMENTO TECNOLOGICO DELL'UNIVERSITA' DEGLI STUDI DI TORINO	トリノ
SOCIALFARE IMPRESA SOCIALE	トリノ
ING VITO ABATE START UP	カステルベトゥラーノ
MICH – MAESTRALE INNOVATION CREATIVE HUB	テルニ
BIC INCUBATORI FVG	トリエステ
INNOVATION FACTORY	トリエステ
H-FARM	ロンカーデ
T2I - TRASFERIMENTO TECNOLOGICO E INNOVAZIONE	トレビーズ
FRIULI INNOVAZIONE-SOCIETA' CONSORTILE	ウディネ
VEGA - PARCO SCIENTIFICO - TECNOLOGICO DI VENEZIA	ベネチア
START-UP GYM	ベローナ

(出所) INFOCAMERE, Registro Imprese を元に作成

V. 総論

本章では、イタリアでのスタートアップ事業への進出を目指す日本のスタートアップや、イタリアのスタートアップとのコラボレーションを目指す日本企業への考察を述べる。

イタリアのスタートアップ・エコシステムは現在、成長途上であり、日本企業との協力に大きな可能性を秘めている。全体として投資家による関心は高まっており、欧州の主要国の中で上位のトレンドに位置づけられている。

2018年末から2023年末までの4年間で、企業・メイドインイタリアー省に登録されたスタートアップの数は9,758社から1万3,820社へと、41.6%増加し、過去5年間の年平均成長率は25%で、アーリーステージの資本は40%増加している。⁵⁶

フィンテック分野のイタリア発の2つのユニコーン企業、サティスペイ (SATISPAY) とスカラペイ (SCALAPAY) に加え、2024年末までに4つのスタートアップがユニコーンになる予定だ。イタリアのユニコーン企業の数他の欧州諸国に比べてまだ少ないものの、同国のスタートアップ・エコシステムは成長しており、今後数年間でその数は増えると予想されている。ユニコーンが少ない主な理由は、資金へのアクセスが少ない、頭脳流出、官僚主義などが国の現状としてあることは否めない。現在、イタリア政府はスタートアップへの投資を増やしており、乗り越えるべき課題はまだあるにもかかわらず、イタリアのユニコーン企業の未来は明るいといえる。

予想される今後のトレンド：

- ・ AI と機械学習の成長
- ・ 循環型経済と持続可能分野の成長
- ・ ビジネス向けブロックチェーンと暗号資産への関心の高まり
- ・ インダストリー4.0 (IoT とロボティクス) の技術開発

イタリアに投資する根拠：

現在、イタリアは非常に活気に満ちたスタートアップ・エコシステムが成長を続け、インキュベーターやアクセラレーター、資金調達プログラムがさらに整いつつある。

イタリアの教育システムは世界有数の優れた水準にあり、高いレベルのスキルと専門知識を持った多くの若者はイタリアの労働力として誇ることができる。また、欧州には4億5,000万人以上の消費者が居住しており、欧州市場への戦略的なアクセスポイントとして機能することもできる。さらに、イ

⁵⁶ "registroimpresa.it, <https://www.registroimpresa.it/start-up-innovative>. <https://startup.registroimpresa.it/sin/home>

Ministero delle Imprese e del Made in Italy, "Startup innovative", <https://www.mimit.gov.it/index.php/it/impresa/competitivita-e-nuove-impres/start-up-innovative>

イタリア政府は外国人投資家に様々な税制上の優遇策⁵⁷を提供している。加えて、イタリアと日本は強い二国間関係と長い経済協力の歴史を持っている。

今日イタリアに投資することは、上述の理由から非常に有利であるといえる。ただし、スタートアップ分野および投資に関する現行の法規（Startup Act）⁵⁸を理解することが必要である。また、ポートフォリオを多様化すること、すなわち、異なるセクターや開発段階のスタートアップに投資し、他の投資家との共同投資を検討することが今後のビジネス拡大の鍵となる。最後に、信頼関係を築き、イタリアのビジネスコミュニティとの関係を構築し、スタートアップに戦略的に関わっていくことは今後の重要な課題となるであろう。

イタリアにおける最も興味深い市場と今後の投資の機会：

・フィンテック

イタリアでは、フィンテック市場が急成長しており、2023年末時点で40億ユーロを超える市場価値があるといわれる。このセクターは、スマートフォンの高い普及率とデジタル決済の増加によって特徴づけられている。イタリアのフィンテック・スタートアップは、モバイル決済、クラウドファンディング、ブロックチェーンなどの分野で革新的なソリューションを開発している。

・サイバーセキュリティ

イタリアにおけるデジタル化の進展は、情報セキュリティ・ソリューションへの需要の増加につながっている。2023年に10億ユーロを超えるとされるイタリアのサイバーセキュリティ市場は、今後数年間で年間約10%の成長が見込まれている。イタリアのスタートアップは、データ保護、アイデンティティ管理、サイバーインシデント対応のための先進的なソリューションを提供している。

・アグリテック

イタリアは農業分野のリーダーであり、同分野において強い伝統と高品質の製品を生み出している。持続可能性とイノベーションへの注目の高まりが、アグリテック・スタートアップにビジネスの機会を提供している。イタリアのスタートアップは、精密農業、スマート灌漑、食品供給チェーンの管理などの技術を開発している。

・ヘルステック

イタリアは高齢化する人口と普遍的な医療システムを持っており、ヘルステックスタートアップにとって好条件を提供している。2023年に20億ユーロを超えるとされるイタリアのヘルステック市場

⁵⁷ Ministero degli Affari Esteri e della Cooperazione Internazionale, “Riforme e quadro normativo per gli investimenti esteri”, <https://www.esteri.it/it/diplomazia-economica-e-politica-commerciale/diplomazia-economica/attrazione-degli-investimenti/riforme-e-quadro-normativo-per-gli-investimenti-esteri/>

⁵⁸ Italian Ministry of Economic Development, “The Italian Startup Act Italy’s policy framework to support innovative startups Executive summary”, 8/7/2019, <https://www.mimit.gov.it/images/stories/documenti/THE-ITALIAN-STARTUP-ACT-agg20.pdf>

は、今後数年間で年間7%の成長が見込まれている。イタリアのスタートアップは、遠隔医療、デジタル診断、慢性患者の管理のための革新的なソリューションを提供している。

- ・クリーンテック

イタリアはグリーン経済への移行に取り組んでおり、クリーンテックへの大規模な投資を行っている。2023年に500億ユーロを超えるとされるイタリアのクリーンテック市場は、今後数年間で年間5%の成長が見込まれている。イタリアのスタートアップは、再生可能エネルギー、エネルギー効率、持続可能なモビリティのための技術を開発している。

レポートをご覧いただいた後、アンケート（所要時間：約1分）にご協力ください。

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20230055>



本レポートに関するお問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
調査部 欧州課
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
TEL：03-3582-5569
E-mail：ORD@jetro.go.jp